

□平成 24 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 武藤 国浩)

1. PDCA による改善活動を

平成 24 年度の各評価指標に対する取組み実績を見ると、概ね目標に対する達成状況が確認でき、各活動が着実に実行されているものと評価いたしました。このような単期の目標達成が長期的な目標達成（すなわち自然史博物館の使命の達成）に確実につながるものにするためには、ぜひ P(Plan)–D(Do)–C(Check)–A(Action)サイクルをとり入れた管理が望まれます。また、長期目標に対する短期目標の位置づけをより明確にすることで、チェック事項と次のアクションプランがより具体化してくると思います。

2. 自然保護ネットワークの中心に

自然史博物館の使命の一つである「シンクタンクとしての社会貢献」に大いに期待いたします。現在、県内各地で様々な自然保護活動が取り組まれています。このような活動を着実にそして継続したものにするためには、適切な支援が必要になると考えています。そのために、平成 24 年度も専門知識の提供などの活動が多く行われたことは大いに評価できました。今後は、様々な形式による研究成果の発表や、外部研究機関の連携とその発信などを通して、県内の自然保護活動を結ぶネットワークの中心的存在であって欲しいと思います。

3. 自然環境研究の人材育成

自然史博物館の教育普及活動について、様々な普及事業や教育支援活動、そしてボランティア、友の会活動の充実化が、平成 24 年度においても着実に実施されたことは大いに評価できました。ただ群馬県の実情を考えると、自然環境系の大学・研究機関が少なく、県内において自然環境の調査研究を継続できる環境がまだまだ少ないのではと感じております。そこで、自然史博物館の機能として、県内の自然環境系の研究者の育成、その活動（仕事）場所として、自然史博物館を利用できたら、将来の自然保護活動を担う人材の育成につながるのではと思います。

(平成 25 年 10 月)